日進市制 30 周年記念

異文化交流会

西アフリカ・マリ共和国の少数民族　のお話

日時　：　2024.6.22（土）　10 時～12 時
場所　；　にぎわい交流館 2 階
講師　：　川田きし江氏（日進市在住の画家・エッセイスト）

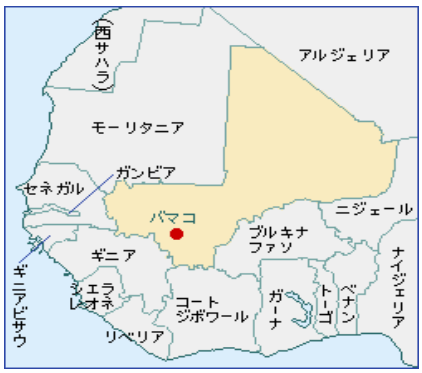
川田きし江画文集「地球スケッチ紀行②」より、ドゴン族の祭りの様子

プログラム

- 講演
- ティーブレイク
- Q＆Aタイム
- 写真撮影

川田　きし江氏　プロフィール

日進市在住。日本文芸家クラブ会員。（有）キリツボ企画代表。画家。油彩、日本画、水彩水墨を描き個展にて発表。80 歳で学芸員の資格を取得。メールマガジン「地球スケッチ紀行」「日本歴史散策」を 20 年に渡り毎月発信。取材で訪れた国は 90 か国余りに及ぶ。



ドゴン族　（山地）

西アフリカのマリ中部、ニジュール川流域に面したバンディアガラの断崖。人口は約 25 万人。ドゴン語。生業は農業で粟、もろこし、稲などを栽培。壮大で体系づけられた神話をもち、祭礼ではみごとな仮面舞踊を演じる。造形美術の制作にもすぐれている。

マリ共和国

人口 2259 万人。首都バマコ。言語はフランス語（公用語）、バンバラ語、など。宗教はイスラム教(80%)、伝統的宗教、キリスト教

普段私たちがほとんど耳にすることがない少数民族（ドゴン族）のお話をぜひ聞いてみたいと約 50 名が参加しました。曲がった木の枝で作った竿で魚を釣り、動物の皮や尻尾で狩猟の道具を作るといった文明社会とはかけ離れた生活を送っている少数民族のお話を参加者一同、真剣に聞き入っていました。年齢を全く感じさせない川田氏の明るくユーモラスなお話に、時折会場から笑い声が上がりました。

「自分の目で見たもの、耳で聞いたものが一番確かなもの。言葉が多少通じなくても心を道具にして、顔の表情で伝え合える。文法が正しくなくても会話は通じるので、心を広げて、何でも吸収しようというハートを持つことが大切。心で感じたことは何年経っても忘れない」

Q＆A タイムでは、参加者から次々と質問が出されました。「仮面舞踊の時の長い竹馬はどのように乗っているのですか？」の質問に「座って 3 メートルの竹に布を使って足にぐるぐる巻き自力で立っている」と答えられると、会場から驚きの声が上がっていました。

川田氏の画文集、絵画とドゴン族の仮面・装飾品など

会の終わりに参加者全員で記念撮影。参加者からは、「普段耳にすることのない貴重なお話が聞けて良かった」「先生の明るく可愛らしいお人柄のおかげで楽しい時間を過ごせた」「ティータイムまであってほっこりできた」などの感想が出ました。